

「受賞者の声」

テーマ「職業能力開発の実践」

副題「高度職業訓練における共同研究としての開発課題実習「レスキューロボットの開発」の指導と評価およびロボット製品化に係る事業主支援」

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

関東職業能力開発大学校	小林 崇
東北職業能力開発大学校	乾 勝典
関東職業能力開発大学校	南 公崇
関東職業能力開発大学校	永野 善己

この度は職業能力開発論文コンクールにおいて、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長賞を賜り誠にありがとうございました。突然の受賞の知らせに著者一同大変喜んでおります。また、本論文を執筆するにあたり多大なご支援を頂いた関係各位に深く感謝申し上げます。

わが国の高度職業訓練の一翼を担う独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が設置運営する職業能力開発大学校の応用課程は、一般大学にはない独自の教育訓練システムを持っています。その教育理念は、現在の実際の「ものづくり」現場を教育訓練の場に持ち込むことであり、高度な教育訓練により新製品の開発能力や創造性の付与および企画開発能力の習得を目指しています。

その中で応用課程の開発課題実習は、最終課題実習であり、生産現場を意識した「ものづくり」全工程の生産管理を主体的に行うことにより、複合した技能・技術およびその活用能力や創造性を習得する課題実習です。

本論文では、関東職業能力開発大学校応用課程生産システム技術系3科における開発課題実習において、長期的戦略的な計画と指導案に基づいて先端ロボット（レスキューロボット：災害対応支援ロボット）の開発と指導及び評価を行ったとする論文です。そのなかでは、製品開発のための学生の教育訓練を重要視しながらも同時に将来の製品の実用化を目指した取り組みを行ってきました。その理由として、ロボット分野は将来的に大きく市場が進展する先端分野であり、開発課題実習の成果物が製品化を目指せば社会に貢献でき、同時に真の実践教育に結びつくと考えたからです。

今後も、わが国のものづくりに対する高度職業訓練での開発課題実習の指導と成果物の実用化は重要性を増すと思われることから、著者一同精進を重ね、指導技法の向上や成果物の実用化に挑戦する決意です。